

北国に春を



清掃車は、人が歩く速度（時速2～3km）で進みながら歩道の縁石ぎりぎりにブラシを回転させて、路側帯（車道の端の白線と縁石の間）に溜まった土砂をかき出していく。ブラシ式清掃車は左ハンドルで、運転手はバックミラーを見ながら巧みにブラシを操る。助手席では周りの通行車両に目を光らせている。特に左折車の割り込みには注意が必要だ。ブラシは鉄製の細い板を束ねたもので、10回程の作業で摩耗してしまう



車両前方のブラシでかき出した土砂は、後ろの大きなブラシでホッパー（土砂タンク。「注意」標示がある部分）にかき上げる。巨大な掃除機だ



作業車のホッパーが一杯になる都度、ダンプトラック（産廃運搬車）に積み替える。トラックを一部歩道に乗り上げる必要があるときには、通行車両の他、特に歩行者にも目を配る。この作業に一番気を遣う

表紙：札幌市街地は、通勤通学が始まる1時間前までには清掃を完了

目次：早朝5時、作業の安全を期し、気合いを入れて出発

裏表紙：路面清掃に使用する水を、維持作業用の給水栓から散水車のタンクに補給

呼ぶ、路面清掃

北海道は半年間、雪に閉ざされます。ようやく寒さが緩み雪解けを迎えるのは、春分も過ぎ日差しの強さを感じるようになってから。すると冬期間に溜まった道路の汚れが気になりだし、空気も埃（ほこり）っぽくなってきます。そのころ、道民が首を長くして待つのが路面清掃車。道路の路面清掃が終わって、ようやく北国に新しい春が訪れます。



機械開発北旺株式会社

工事部 維持課長 植木 康央 さん

春の路面清掃は、積雪のある北海道特有の維持作業です。秋から5カ月ぶりの清掃で、冬の間に溜まった汚れやゴミをきれいにします。歩道は人力で行っています。道路はみんなで使うもの。清掃、補修、除雪やパトロールなど、維持作業は安全に直結するので、気を引き締めてあたっています。



機械開発北旺株式会社

工事部 維持課 福原 利幸 さん

春は、やはり作業量が一番多くなります。まず、清掃車のブラシを傷つけたり、万が一、周囲に飛んだら危ない大きな石や車からの落下物を拾っていきます。次に、周りに埃を舞い上げないように散水で汚泥を少し湿らせ、ブラシでかき上げていきます。汚泥が清掃車のホッパー（汚泥タンク）一杯になったら、ダンプに積み替えて、作業を続けます。

市街地は交通量も多くバスレーンがあるので、早朝の作業になります。近年、道路も良くなり作業車も改良されてきて、格段に作業効率が上がっています。